

平成23年度  
障害者雇用  
職場改善好事例

# 奨励賞

株式会社もりじょう (広島県安佐北区安佐町)

## 支援機関との連携、ジョブコーチ支援事業の活用により発達障害者の職場定着をサポート



1 支援機関との連携

3 障害理解

5 行動面の課題改善

2 ジョブコーチ支援

4 職務遂行



### 事業所の概要

丸井産業株式会社が、障害者雇用及び企業の社会的責任への取り組みの強化を目的に、特例子会社として平成21年4月に設立。

従業員数 17名

### 発達障害者雇用の経緯

障害者雇用にあたっては、採用する人の職業能力を最重要に考えているため、障害種別で採否を判断する活動は行っていない。採用した従業員の中に発達障害の従業員がいた。

### 業種及び主な事業内容

主に建設資材の組み立て、梱包作業を行っている。

### 発達障害者雇用数

従事作業 発達障害者 **2名**  
建築資材の組み立て・梱包作業

## 取り組みの概要

キーワード	改善前の状況	改善内容	改善策	改善後の効果
<b>1</b> 支援機関との連携 <b>3</b> 障害理解	作業面や行動面の課題が発生した発達障害のAさんに対する対処方法が分からなかった。	ジョブコーチ支援事業の活用を、広島障害者職業センターに要請する。	<b>1</b>	障害特性に応じた支援、関係機関との連携によるケース会議等を通じて問題解決を図る。
<b>2</b> ジョブコーチ支援 <b>4</b> 職務遂行	Aさんは休憩時間が終わっても作業に戻れず、またこだわりが強く不必要な工程を加える等により、タイムスケジュールに沿った作業遂行ができなかった。	休憩時間の過ごし方、作業場面での対応方法について、ジョブコーチ支援事業を活用した支援を行う。	<b>2</b>	タイムスケジュールに沿った休憩時間の過ごし方が可能になり、また、一時間ごとの作業を机に準備することで、能率を意識した作業遂行が可能になる。
<b>2</b> ジョブコーチ支援 <b>5</b> 行動面の課題の改善	様々な要因により混乱するAさんは、大声を出す、ドアを乱暴に開閉する、作業場を歩き回る等の落ち着きの無い行動が増える。	要因と思われる状況を改善するための方法を行う。また、昼休憩の時間に10分間話を聞く時間を設ける。	<b>3</b>	支援を受けることで事業所担当者、本人共に視点が変わり、適切な対応方法を行うようになる。

## インタビュー

### 企業の声



●株式会社もりじょう  
取締役 加藤 昌彦 さん

私は、朝・夕の挨拶をかかささないようにし、障害のある社員の表情や顔色を見ることで、精神状態を把握するようにしています。他の事業所での経験も含め、20年前から障害者雇用を進めてきましたが、障害があっても、社員一人ひとりは大切な戦力であり、社会の一員であるという意識を持って、長く勤めて欲しいと思っております。

### 企業の声



●株式会社もりじょう  
指導員 村上 智枝美 さん  
ジョブコーチ支援を受けることで視点が変わり、適切な対応の仕方を学ぶことができました。

▲左:土井さん、右:村上さん  
少し対応を変えるだけで、大きな変化が見られたので、障害に対する正しい知識と、個人に対する理解を深めること、適切な対応を学ぶことの重要性を実感しました。また、障害者雇用を継続していくためには、ハローワーク、地域障害者職業センター等の支援機関、家族の協力が大切であると感じています。

### 従業員の声



●Aさん  
私は、責任を持って一つひとつの製品を作っていくことで、責任感が強くなり、自信につながっています。私は、この会社で長く勤めたいと思っています。ジョブコーチ支援を受けることで、時間を意識しながら行動すること、臨機応変に対応すること、突発的なハプニングがあっても落ち着いて行動すること、言われた事をきちんと守ること、作業を早く進めることを意識し、できるようになってきています。また、支援を受けることで自分のことが分かるようになってよかったですと思います。

# 改善策紹介

## 改善策 1

キーワード 1 支援機関との連携 3 障害理解

### 発達障害のAさんの課題に対し、ハローワーク職員を通じて、ジョブコーチ支援の活用について知り、支援を実施

株式会社もりじょうは、特例子会社として、知的障害、精神障害者等を採用。採用後一年ほど過ぎた頃から、発達障害の従業員であるAさんの作業時、休憩時の過ごし方についていくつかの課題が発生した。事業所では、どのように対応してよいか分からなかったところ、定期巡回しているハローワーク職員より、広島障害者職業センターのジョブコーチ支援事業について情報提供を受け、活用することとなる。「今後どうしていくか」について、事業所、本人、家族、ハローワーク、障害者職業センターによるケース会議や個別面談等を通じて方針を決め、問題解決を図っていった。Aさんに対する支援を通じて、事業所側も、障害に対する正しい知識を持つことや障害者個人に対する理解を深めることの大切さを知ることが出来た。



▲ケース会議の様子

## 改善策 2

キーワード 2 ジョブコーチ支援 4 職務遂行

### ジョブコーチ支援を活用したタイムスケジュールに沿った作業遂行等の支援

Aさんが、休憩時間に携帯電話を見続ける(思いついたことや、視界に入ったものに注意が逸れる)、トイレに行く時に、手袋・腕抜き・耳栓をバラバラに置いたためどこに置いたかが分からなくなる等により休憩時間が終わっても作業を開始出来ないことがあった。また、こだわりが強く不必要な工程を加える(例:左右対称でなければ落ち着かず汚れてない軍手をわざと汚す、金属片が服についていると思い何度も服を掃う等)のため時間がかかっていた。そこで、ジョブコーチ支援を活用し、休憩時間の過ごし方を決め、きちんと守られたかどうかをチェックするとともに、物の置き場所を決めて常に定位置に置くようにした。また、アラーム機能付きの腕時計を活用し、休憩時間が終了する時には、作業に戻れるようにした。さらに、Aさんにはこだわりが出にくい作業を任せると共に、一時間分の作業を机に置き、時間を意識して作業を行えるようにした。これらの取り組みにより、休憩時間後の作業開始もスムーズになり、能率を意識した作業遂行が可能となった。

★休憩時間

10:00~10:15  
12:00~13:00  
15:00~15:15

★時間通りに過ごすために、スケジュールに沿って休憩時間を過ごしましょう。

10:15	/	/	/	/	/	/	/
13:00	/	/	/	/	/	/	/
15:15	/	/	/	/	/	/	/

「休憩時間チェック表」▶

○職場内のスケジュールに沿って取り組むこと。

10時休憩のスケジュール	12時休憩のスケジュール
<p>10:00 チェームが休みます</p> <p>作業場</p> <p>1 タオルをとります</p> <p>1 隔トイレ</p> <p>2 手をあらいます</p> <p>3 トイレにいけます</p> <p>給湯室</p> <p>4 うがいをします</p> <p>5 すきなことをします</p> <p>10:10 アラームが休みます</p> <p>作業場</p> <p>6 タオルをしまします</p> <p>7 軍手をつけます</p> <p>8 まるをつけます</p> <p>9 スケジュールをしまします</p> <p>10:14 アラームが休みます</p> <p>10 作業をはじめます</p>	<p>12:00 チェームが休みます</p> <p>作業場</p> <p>1 タオルをとります</p> <p>1 隔トイレ</p> <p>2 手をあらいます</p> <p>3 トイレにいけます</p> <p>昼食の机</p> <p>4 お昼ご飯を食べます</p> <p>給湯室</p> <p>5 ペットボトルをあらいます</p> <p>6 歯みがきをします</p> <p>7 すきなことをします</p> <p>1 隔トイレ</p> <p>8 手をあらいます</p> <p>9 トイレにいけます</p> <p>休憩室</p> <p>10 リュックの中を整理します</p> <p>11 OOさんと話します(話さない時は、休憩室ですごします)</p> <p>12:50 アラームが休みます</p> <p>作業場</p> <p>12 リュックとタオルをしまします</p> <p>13 軍手をつけます</p> <p>14 まるをつけます</p> <p>15 スケジュールをしまします</p> <p>12:57 アラームが休みます</p> <p>16 作業をはじめます</p>

▲「スケジュール表」

改善策

キーワード

2 ジョブコーチ支援

5 行動面の課題の改善

3

ジョブコーチ支援を活用した、行動面の課題の改善

Aさんは忘れ物をしたり、突発的なアクシデント(例:バスに乗り遅れる、バスが時間通り来ない等)に遭遇した時、特定の人の声を聞いた時、睡眠不足の時、自分の思いこみを現実として捉えてしまった時等に混乱し、大声で「うるさい」と言ったり、ドアを大きな音をたてて開け閉めしたり、作業場を歩き回る等、落ち着きのない行動が発生していた。そこで、それぞれの状況について、以下のような改善策を考えて対応することとした。

- 忘れ物については、チェック表を玄関に取り付ける等して家族に協力してもらい忘れ物を防ぐ取り組みをする。
- 突発的な出来事への対処については、その都度対応方法を伝えている。例えば、バスに乗り遅れた場合は、職場に連絡してから、次のバスで出勤すればよい等、具体的な対応方法を伝えている。
- 特定の人の声を聞くことが苦手なことに対しては、特定の人の接点をできるかぎり少なくすると共に、1人で休憩できるスペースを設け、休憩時間はそこで過ごせるようにしている。
- 睡眠不足になりやすい点については、家族の協力のもと、帰宅してから就寝までのスケジュール表を作成し、出来るだけスケジュール通りに行動し睡眠を確保するようにしている。
- 自分の思いこみを現実として捉えてしまうことについては、話を聞くと落ち着くため、朝出勤した際に、今日話したいことがあるかを確認し、話したいことがある場合は、昼休憩時に10分間話を聞くようにした。それでも、不安が治まらなかったり、仕事に落ち着かなくなった場合は、Aさんが一番落ち着く場所である給湯室で落ち着いてもらうようにしている。

上記のように、予め事業所担当者もAさんも、Aさんが混乱しないための対応策、混乱した際の対応策を決めておくことで、適切に対応できるようになり、結果としてAさんが混乱し落ち着きのない行動が発生する頻度が減少した。



▲一人で過ごせる休憩室

※ここがポイント

発達障害の従業員の中には、Aさんのように聴覚的な過敏さ等のため、休憩時間は一人だけで過ごせるような場所を設定することで、落ち着いて過ごせる方もいます。



▲不安な時、落ち着かない時に給湯室ですること